



報道関係者各位

2018年4月24日(火)
NPO 法人日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカー体験型授業「スポ育」2017年度集計 371件・14,549人が体験し、累計体験人数が115,430人に

NPO 法人日本ブラインドサッカー協会（以下、JBFA）は、小・中学生を対象とした体験型授業「スポ育」の2017年度分の集計を終え、昨年4月から今年3月末までに、371件(90分の1コマを1件とする)、14,549人が参加したことをご報告します。事業を開始した2010年9月から累計で11万人を超え、2018年3月までに2,632件、115,430人が体験しました。

「スポ育」は、パラリンピック競技であるブラインドサッカーの要素を用いたダイバーシティ（多様性）教育プログラムです。内容は講演会や通常の体験会とは異なり、1件あたり90分、20名から50名までの参加を基本とし、子ども達全員が視覚に障がいのあるブラインドサッカー選手と触れ合いながら、視覚をアイマスクで閉じた状態でさまざまなワークショップを行います。実施先からは、障がい者の理解や多様な個性の尊重、相手の立場に立った声の掛け方などへの気づきを生み出した、子供達が他の障がい者スポーツやパラリンピックにも興味を持った、等の評価をいただいております（実施先からの感想は3枚目にあります）。

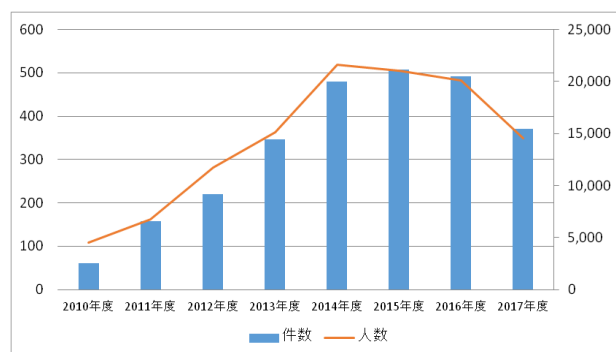
本事業は、2018年4月現在、10社のパートナー企業のサポートにより原則無料で実施しています。今年度は、コルジャ仙台ブラインドサッカークラブ協力の下、宮城県を中心に東北地方でのスポ育活動を行ってまいります。より多くの子供達に体験していただけるよう、活動地域拡大に向けて動き始めます。

また、2015年秋からは、約14万人が取得している民間資格「サービス介助士」を育成・認定している公益財団法人日本ケアフィット共育機構と事業提携し、視覚障がい者、聴覚障がい者、車いす利用者など、お手伝いが必要とされる人へのホスピタリティあふれる介助の方法を正しく学ぶ授業「おも活」（おもてなし・おもしろ活動の略）も実施しています。スポ育を通して楽しく障がい者と出会い、障がい者への見方が変わった子ども達に「おも活」で介助方法を学んでもらうこれまでにない教育手法で、思いやりの心や考え方などの広がりにつながった、子ども達が今後の生活へ活かそうと意欲が湧いた、と評価をいただいております。スポ育実施校向けに、2015年度は11件、2016年度は21件実施、2017年度は11件実施致しました。

2017年度のスポ育は、受け入れ可能な件数を大きく上回る約1.6倍の申し込みをいただきましたが、派遣する講師の数やスケジュールなど調整が難しく、お待ちいただくかお断りする状況となっています。ご要望に応えるためには、講師を務める障がい者アスリートの養成と雇用が急務となっており、より多くの企業・団体からのサポートを必要としているのが現状です。JBFAでは、一人でも多くの子供達がスポ育を体験できるよう、これからも真摯にこの活動に取り組んでまいります。

<スポ育実施件数および体験者数の推移>

期間	件数	人数
2010年9月～2011年3月	61	4,509
2011年4月～2012年3月	157	6,782
2012年4月～2013年3月	220	11,754
2013年4月～2014年3月	347	15,081
2014年4月～2015年3月	479	21,617
2015年4月～2016年3月	508	21,008
2016年4月～2017年3月	491	20,130
2017年4月～2018年3月	371	14,549
累計	2,634	115,430



2017年度の「スポ育」活動実績

<月別>

実施月		件数	人数	
2017年	4月	17	643	
	5月	36	1,235	
	6月	40	1,483	
	7月	20	784	
	8月	10	261	
	9月	47	2,054	
	10月	46	1,770	
	11月	45	1,867	
	12月	20	817	
	2018年	1月	37	1,522
		2月	44	1,721
		3月	9	392
計		371	14,549	

<学年別>

学年	合計(人数)
小学3年生	906
小学4年生	6,659
小学5年生	2,245
小学6年生	1,110
中学1年生	1,124
中学2年生	1,277
中学3年生	740
高校1年生	223
高校2年生	24
特別支援学級	20
大学生	12
小学生	59
高校生	150
計	14,549

<地域別>

	地域	件数	人数
宮城県	仙台市	3	209
	あきる野市	3	152
	葛飾区	20	947
	江戸川区	18	658
	江東区	4	139
	港区	10	349
	荒川区	6	206
	渋谷区	2	52
	小平市	4	151
	昭島市	2	62
	新宿区	24	985
	杉並区	7	381
	世田谷区	6	192
	清瀬市	5	187
	西東京市	9	304
	足立区	9	274
	大田区	4	170
	中央区	5	133
	中野区	6	267
	町田市	17	614
	調布市	6	266
	東久留米市	5	196
	八王子市	7	253
	板橋区	4	223
	品川区	44	1,721
	武蔵村山市	3	105
	武蔵野市	4	137
	文京区	26	993
	豊島区	2	103
	北区	5	211
	目黒区	8	329
	立川市	2	49
	練馬区	14	578
神奈川県	横浜市	23	881
	川崎市	3	179
	その他	7	244
埼玉県	行田市	1	10
	朝霞市	4	136
	その他	2	67
千葉県	千葉市	2	104
	その他	1	25
大阪府	大阪市	23	910
	その他	1	50
兵庫県	神戸市	3	102
	西宮市	2	115
その他		5	130
計		371	14,549

実施先からの感想の例

「障がいがあってもサッカーができることがわかりました。そのためには、周りの人の声が大切だとわかりました。これからは友達の気持ちを考えて行動していきたいです。」

(大阪府 小3男子)

「私はあの時間を通して、相手の気持ちを思って行動するのは素晴らしいことだと思いました。これから町で障がいのある人だけでなく困っている人がいたら相手の気持ちを考えて手伝ってあげたいです。」

(東京都 小4女子)

「最後に先生に質問(ブラインドサッカーへ関わっていることについて)をした時、「(ブラインドサッカーは)自分の好きなことだから」と言っていて、私はプールで泳ぐことが得意なので「水泳のボランティアになれるかな」と思いました。」

(東京都 小4女子)

「今日はブラインドサッカーについて教えて頂きありがとうございました。最初にアイマスクをつけて走ったときはとても怖かったです。また、仲間の声でボールの位置や相手の位置を知り、コミュニケーションをすることは難しかったです。仲間に伝えるときにどのように言えたらよいのか悩んでいました。町中でも目が不自由な人のお手伝いを出来るように言葉で話す力をつけようと思いました。」

(東京都 中一女子)

「日常的にも「あれ、それ」などでは伝わりにくいものが多いです。しっかりと「あれ、それ」の内容を言うことによって相手に伝わりやすくなるということを再確認させて頂きました。また、相手がどう思うのか、どう感じるのかしっかりと考えて行動をすることがブラインドサッカーにつながっていくとは思いませんでした。またやってみたいです。」

(東京都 中一男子)

「(子供達は) ブラインドサッカーのことはもちろんのこと、障がいをもつ方々が一緒に楽しむことが出来る他のスポーツや、パラリンピック等にも興味を持ったようです。また、何より、コミュニケーションの大切や素晴らしさに気づくことができ、「これからの自分ができること」について考えた子どもたちの心の大きな成長を感じることができました。本校職員一同、とても嬉しく思っております。子どもたちだけでなく、職員の私達も多くのことを学ばせて頂きました。」

(千葉県 小学校教諭)

本件に関するお問い合わせ

NPO 法人日本ブラインドサッカー協会 事務局

E-mail: media@b-soccer.jp 協会ウェブサイト: <http://www.b-soccer.jp>

住所: 〒169-0073 東京都新宿区百人町 2-21-27 ペアーズビル 3 階

電話: 03-6908-8907 FAX: 03-6908-8908